

愛の火永遠 恋人の聖地

廿日市市宮島町の弥山（535㍎）山頂近くにある真言宗大聖院の不消きえずのれいかどう霊火堂が、カップルのきずなを深める「恋人の聖地」に選ばれた。11月1日には、お堂前に記念プレートを設置する。

NPO法人地域活性化支援センター（静岡市）が認定した。燃え続ける火と「永遠に消えることがないカップルの愛の火」を重ね合わせたロマンチックな物語性を評価した。霊火堂周辺の弥山原始林の自然景観の素晴らしさも選定理由に挙げている。

宮島不消霊火堂の 県内2カ所目に認定

聖地認定は2006年に始まり、全国で84カ所ある。県内では尾道市の千光寺公園に次いで2カ所目となる。

大聖院の吉田正裕座主は「若い人も年配の人も霊火堂を訪れ、いつまでも仲むつまじくあってほしい」と認定を喜んでいる。11月1日午前11時11分、記念プレートを除幕する。

霊火堂は、空海が弥山で修行をした806年から1200年間燃え続けているとされる「消えずの霊火」を守る建物。広島市中区の平和記念公園の「平和の灯」も、霊火堂から採火された。また1901年に操業した北九州市の八幡製鉄所（現新日鉄八幡製鉄所）の高炉の種火になったという。
（鈴木直美）



「恋人の聖地」に選ばれた不消霊火堂で燃え続ける火